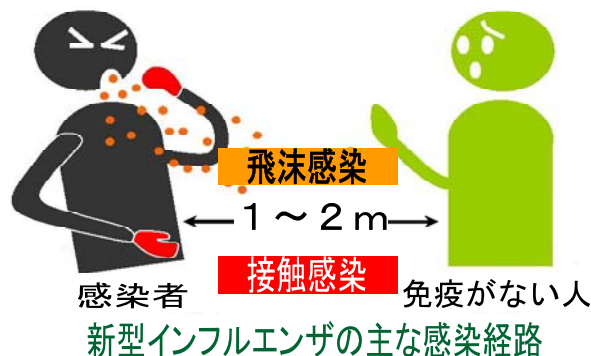


事業者・職場における新型インフルエンザ対策は万全ですか？

インフルエンザが流行シーズンに入ったと考えられます。
流行のピークがくる前に対応策を取りましょう。

◎個人や企業における基本的な感染防止策として、以下のような取組の習慣づけを行いましょ。

- ①対人距離（2m）を保持しましょう。
- ②手洗い（裏面参照）、うがいを日常的に行いましょう。
- ③咳エチケットを行いましょ。
 - ・咳・くしゃみの際は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる。
 - ・鼻汁・痰などを含んだティッシュをすぐに蓋付きの廃棄箱に捨てられる環境を整える。
 - ・咳をしている人にマスクの着用を促す。
 - ・マスクの使用は説明書をよく読んで、正しく着用する。
- ④職場の清掃・消毒等を行いましょ。
- ⑤十分に休養をとり、体力や抵抗力を高めましょ。



◎新型インフルエンザ発生時における、事業場内の感染予防、事業継続に関する意思決定、及び情報の収集を共有するための社内体制を整えましょ。

◎感染防止策を講じつつ、業務を継続する方法として、次のようなものがあります。

- ①在宅勤務、時差出勤、出張・会議の中止
- ②職場の出入口や訪問者の立入場所の制限
- ③従業員・入場者の発熱のチェック
- ④重要業務の絞り込み、不要不急の業務・感染リスクの高い業務の縮小
- ⑤代替要員確保のための班交代制の採用 等

◎従業員に以下のことを教育しましょ。

- ①新型インフルエンザに対する基本的な知識
- ②上記の基本的な感染防止策
- ③感染を疑われる症状を発症した場合の対処 等



新型インフルエンザA型（H1N1）と季節性インフルエンザとの違い

項目	今回の新型インフルエンザ	季節性インフルエンザ
周期	10～40年に1回	毎冬
ウイルス型	ブタ由来のA型(H1N1) 人類の多数が経験せず、免疫なし	A型(H1、H3)、B型、C型 免疫あり
症状 (典型例)	38℃以上の発熱 咳、くしゃみ等の呼吸器症状 頭痛、関節痛、全身倦怠感 等	38℃以上の発熱 咳、くしゃみ等の呼吸器症状 頭痛、関節痛、全身倦怠感 等
潜伏期間	1～7日（多くは3日以内）	2～5日
遺伝子検査	症状のみでは、季節性、新型インフルエンザの区別はつかない。遺伝子検査で確定。	

詳しくは「新型インフルエンザ対策ガイドライン（平成21年2月）」をご覧ください

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/09.html>



大阪労働局・労働基準監督署

<http://osaka-rodo.go.jp>

正しい手洗いの方法



○ 最初に、手を水でぬらして、石けんをまんべんなく手にひろげて泡立てます

1. 手のひらをあわせて、5秒間ゴシゴシ洗う



2. 手の甲を伸ばすように、5秒間ゴシゴシ洗う



3. 指やつめの間も、渦を描くように5秒間ゴシゴシ洗う



4. 指の間も十分に、5秒間ゴシゴシ洗う



5. 親指を手のひらでねじるように、5秒間ゴシゴシ洗う



6. 手首も忘れずに、5秒間ゴシゴシ洗う



○ 最後に、石けんを流水で洗い流して、タオルやハンカチで手を拭いて乾燥させます。